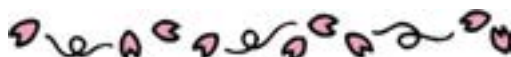


さざなみ



社会福祉法人親和会
さざなみ学園
Tel (0853) 43-2252
Fax (0853) 43-2256
e-mail:sazanami@rhythm.ocn.ne.jp

平成 29 年度を終えて



平成 18 年にさざなみ学園に異動し 12 年が経ちました。この間、112 名の児童を送り出し、今年も 4 名の児童が巣立ちます。当初 70 名だった定員も利用する児童の減少で現在は 30 名となっています。平成 24 年からは、障がい児通所支援を開始。児童発達支援センターぽこぽこ定員 10 名、放課後等デイサービス定員 10 名を 2 カ所開所し、現在では日中も子どもたちの楽しい声が棟内に響き渡っています。

しかし、平成 24 年の児童福祉法の改正により障がい児入所施設に求められるようになったのは、「18 歳で退所」という期限でした。例外として 20 歳までは入所できるということになっています。ただし、施行までには猶予期間が設けられました。それは「障がい児入所施設と障害者支援施設の 2 枚看板」を掲げて、平成 30 年 3 月 31 日までは運営ができるということでした。一昨年の調査では、全国で 239 の児童施設があり、定員は 6,333 名、現員 5,040 名ですが、18 歳以上の方は 1,510 名も在籍しております。現状は、障害者支援施設にも GH にもそもそも空きがないので、行きたくても行けない状況であるということがはっきりとわかります。そこで、国が示したのは平成 33 年 3 月 31 日までの延期です。社会福祉法人や障がい児入所施設に丸投げせず、行き場のない人たちをどうするのかも含め考えていただきたいと思います。

平成 24 年に、障がい児入所施設のままでいくか、障がい者支援施設に転換するのか、障がい児・者併設にするのかの 3 つの中から選びなさいということで、この間に、障がい者支援施設に移行、児者併設型にしたところが多くありました。単独の児童施設で運営することは困難との判断をされたようです。

それにしても、障がい児入所施設の役割は、近年大きく様変わりしました。かつての重度の方が、20 歳を超えてもずっと入所していた時代は終わりました。障害は重度から軽度まで、特に軽度の方や発達障害の方の増加が顕著です。障害種別も一元化され、障害者自立支援法への一部組み入れ、児童福祉法の改正、そして入所の 18~20 歳の期限設定、障害者総合支援法施行、何という怒涛の変化。そのたびに現場は振り回され続けました。

最後になりますが、全国的に障がい児入所施設の入所児童は減少しています。また、施設自体も障害者支援施設にすでに移行したところもあり施設数も減少しています。しかし、障がい児入所施設はどのような形にならうと必要です。多くの障がいのある児童やその家族の方々、また関係者に対する支援の充実を図るため、より一層努力していきますので、今後ともご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【園長 佐貴文紀】



支援課



はつもうで

1月2日長浜神社まで初詣に出かけました。長浜神社には長い坂道の参道があります。子どもたちは登り切った後、それぞれが学校のことや自分自身のことなど、気持ちを込めて手を合わせていました。スタッフとしては参道の坂を軽々と上り下りする子どもたちの姿を観て昨年からの成長を感じると共に皆を引っ張ってくれる存在になってくれた年長児童に頼もしさを感じる場面でもありました。穏やかな日差しの中で参道を上る姿がなんだかこれからのみんなの成長を表しているような気がして今年一年が良い年になる予感がします。

初詣後はそれぞれが冬休み中のおやつを購入し、余暇の為のDVDをレンタルショップで借りています。お正月らしいゆったりとした一日でした。新学期に向け気持ちを新たに過ごしています。

【主任支援スタッフ 高木俊輔】



楽しいあそび

年末から大流行したインフルエンザも一段落し、支援課の子どもたちは皆元気に過ごしています。1月から2月にかけての大雪では朝起きたら積もった雪に目を輝かせ「雪合戦をしたい！！」と大興奮でした。なかには大きな雪だるまを作った子もあり、子どもたちは大満足でした。スタッフも一緒に喜びましたが、内心は道路の凍結や帰宅が心配だった為冷や冷やしていました（笑）。

最近子どもたちの間でキーボードやけん玉、創作活動などが流行っており、新しい曲や技を日々練習し、創作に励んでいる姿が見られます。できた時には友だちやスタッフに披露しており、できた達成感やできることが増えてきたことが嬉しいようです。周りから褒められることでやる気が増して、『もっと頑張ろう』というポジティブな気持ちも芽生えてきているように感じます。日々の生活の中で、小さいことでも頑張っていることはたくさんありますが、バタバタしていると見落としがちになっているなあと反省しきりです。当たり前のことですが、「すごいね」「頑張っているね」などと言葉にして伝えていくことが大事だなと感じています。

3月は卒業式のシーズンです。支援課でも7名の卒業生がおり、進学、または社会に出て行きます。卒園する児童も居ますので、残り少ない学園生活を存分に楽しんでもらいたいと思っています！

【心理スタッフ 水 志】





児童発達支援センター ぽこぽこ

大寒波が過ぎ、ようやく春の気配が感じられる頃となりました。ぽこぽこ（児童発達支援）は、現在 15 名の利用児が通所しています。年度途中から利用を開始された方も、だんだんとぽこぽこでの過ごしに慣れ、いろいろな場面で力を発揮しています。

最近の活動では、冬の醍醐味、雪遊びを楽しみました。足が全部埋まるほどの積雪の中、長靴でどんどん進んでいく姿や、大人の真似をしてスコップで雪かきする姿、スタッフに雪玉を投げて喜ぶ姿… 大人はもううんざりの大雪でしたが、子どもたちにとってはめったにない面白い遊びができた日でした。

2月17日には親子参加型のイベント『ぽこぽこ交流会』を開催しました。雛飾りを作ったり、親子で運動遊びをしたり、おいしい給食を頂いたりして、和やかな雰囲気となりました。保護者の方同士が交流できるこのようなイベントを、ぜひ来年度も継続して開催できればと思います。 【主任療育スタッフ 高松優美】



放課後等デイサービス



2月には今季一番（ここ数年でも滅多にない）寒波が来ましたが、インフルエンザの流行もありデイも少人数の活動となる日もありました。

第一デイサービスでは雪遊びをしました。体調面も考えて室内で遊びましたがタライの雪を触ったり、器に入れたり、小さなお団子や雪だるまを作ったりしました。部屋の中は寒さもなく季節を感じて遊びました。

第二デイサービスでは当番の活動に取り組んでいます。自分で当番を選んで行います。開始や終了の挨拶、丁寧に行う、スタッフと一緒に取り組む等目標や方法はそれぞれ異なります。終わりの会では振り返りを行い次への励みにしています。役割があるということは所属感に繋がります。家庭や学校等の集団があります。がデイでの過ごしもやりがいや責任を感じる経験に繋がる様に支援しています。 【副主任療育スタッフ 日野望】





ふれあい教室

お父さんやお母さんと一緒に「おはよう！」と元気いっぱい挨拶をしながら通園してくれるふれあい教室のお友だち。今年度は、新しいお友だちが9名通園開始され、とっても賑やかになりました。最初は慣れなくて恥ずかしがっていたお友だちも、今では元気いっぱい遊び、たくさんの笑顔を見せてくれています。

そんなふれあい教室では、今年度も季節に合った作品をたくさん作りました！春はこいのぼり、夏は七夕飾り、秋はとんぼやどんぐり、冬は書初めや鬼作りをしました。一人ひとりが個性豊かにのびのびと仕上げ、とっても素敵な作品ができあがりしました！

今年度も残りわずかとなりましたが、子どもたちの笑顔と「たのしい！」「やってみたい！」という気持ちを大切にしながら、様々な活動にチャレンジしていきたいと思えます。また、保護者の方たちの気持ちに寄り添いながら、子どもの成長と一緒に喜び、見守っていききたいと思います。来年度もよろしくお願ひします。

【療育スタッフ 水師成美】



- ◎日本赤十字社島根県支部様より義援金を頂き、玩具やパズルなどを購入させて頂きました。
- ◎神西幸楽会女性部様よりタオルを寄贈して頂きました。
- ◎中国電力出雲第一支部様よりポケットティッシュを寄贈して頂きました。

日頃よりたくさんのご支援、ご協力を頂きありがとうございます。大切にに使わせていただきます。

編集後記

本年度中は大変お世話になりました。今年度も様々な行事や出来事があり、子どもたちもスタッフもたくさんの思い出ができたと思います！また来年度に向けて新たなスタートが切れるよう、体調に気を付けて元気に過ごしていきたいと思います。

広報委員：日野、大畑、嘉本、松岡